



野崎秀則 (のざき・ひでのり)

1982年立命館大学理工学部卒業。同年オリエントコンサルタンツ入社。2005年取締役執行役員、07年取締役常務役員。09年社長。同年ACKグループ取締役。12年代表取締役副社長。13年12月より現職。

# 新社長登場

野崎秀則

ACKグループ社長

## 社会インフラ創造企業を目指して変革と挑戦を実行

日本で最大級の総合建設コンサルタント企業であるACKグループ。インフラ分野が得意で、現在は復興関連などで旺盛な需要がある。しかし目指すのは受託型ではなく、自ら企画する主導型ビジネスへの脱皮である。

聞き手 = 本誌編集委員 / 清水克久

### 公共事業での豊富な実績を元に民間、海外へも

—— まず御社の概要をお聞かせください。

野崎 当社は、1999年にオリエンタルコンサルタンツを中心にグループを形成し、2006年に株式会社ACKグループを持株会社としました。国内では交通関連を中心としたインフラ事業において、豊富な実績を持っていると自負しています。

現在、グループの事業会社は5社ですが、今後もM&Aで強化していく方針です。それもただ増やせば良いのではなく、当グループの総合力を高めていくために、どんな企業と連携すべきかを十分に考える必要がある。さまざまなインフラ事業に展開していく分野の広がり、そして調査から始まり、計画、設計、施

工、施工管理、運営までワンストップで受注できる総合化、さらに地方、海外という地域の広がり、国内公共、国内民間、海外の3つの市場の連携を強化していくことを考えています。

—— 海外でも積極的な展開をしているのでしょうか。

野崎 直近の売上高が330億円ほどですが、そのほぼ1/3が海外での受注です。最近話題になったトルコのボスボラス海峡の地下鉄道工事、カタールでの総合開発計画などの大きなプロジェクトを手懸けています。

これまでインフラという公共事業がほとんどだったので、今後、海外や民間からの受注に力を入れていきたいと考えています。

—— 中長期的にはどのような目標がありますか。

野崎 2013年9月に「AC

れらを統合する、民間開発、海外の新規開拓、地域活性化、事業経営の4つの統合事業からなる8つを重点化事業として力を入れていきます。

### 自らが投資してインフラ

#### 総合管理の実証実験を

—— 挑戦とはどういうことですか。

野崎 一例ですが、太陽光発電事業は既に展開しています。自治体と連携し、公共施設の屋根などをお借りして、当社の事業として太陽光発電事業をおこなっています。15年ほど経過して、当社が所定の利益を上げることができたら、自治体に発電施設を無償譲渡する予定です。また埼玉県上里町では、インフラ保全に関して、ICTを活用した道路維持管理システムの導入、維持管理のマネジメント方法の



ボスボラス海峡（トルコ）の地下鉄道工事のプロジェクトに参画した

KG2013」という中期経営計画を策定しました。ここでは、社会インフラ創造企業、自らが社会を創造する担い手となる、というスローガンを掲げました。そのために「変革」と「挑戦」を実践していきます。

まず「変革」と言うことでは、従来から土木・建設の分野は公共事業が主体であることもあって、どうしても事業が受託型、つまりは請負業になってしまいましたが、これを主導型に変えていきます。例えば最近では、公共事業の入札案件でも、プロポーザ

けではなく、異業種との連携も必要になってくるでしょう。—— 最後に今後の展望をお聞かせください。

野崎 東日本大震災もあり、国土の強靱化は喫緊の課題です。また中央道笹子トンネルの事故などで分かったように、既存インフラの老朽化も大きな課題です。そういった社会資本の整備、維持運営、それを持続的に推進していくことは、経済や地域の活性化に直結するので、社会的なニーズは非常に高まっています。それらの社会的な要請に、グループ全体として応えていくことで世界と伍して戦える社会インフラ総合企業になることが大きな目標です。そのためにグループの連携力強化、情報を共有するための仕組み作り、グループ内の基盤整備に積極的に取り組んでいます。